

令和4年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	脇野沢瀬野牧野、脇野沢滝山牧野、脇野沢源藤城牧野、 むつ市営瀬野畜舎、むつ市営滝山畜舎、むつ市営源藤城畜舎	
指定管理者	団体名	一般社団法人むつ市脇野沢農業振興公社
	代表者	理事長 小田 晃 廣
	所在地	むつ市脇野沢七引201番地5
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日（5年間）	
指定管理業務の概要	(1) 牧場施設、家畜管理施設の維持及び修繕 (2) 施設の使用許可 (3) 牧場施設、家畜管理施設の利用料金の收受	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	2,650	2,709	59
うち利用料金額	446	505	59
うち指定管理料	2,204	2,204	0
支出合計 (B)	2,650	2,896	246
うち人件費	0	0	0
収支差 (A-B)	0	△187	△187
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<ul style="list-style-type: none"> ・電気料金の高騰により水道光熱費の増加 ・消耗品費、修繕費の増加 		

3. 施設利用の状況

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	牧野利用戸数	0戸	0戸	0戸
	放牧頭数	0頭	0頭	0頭
	牛舎利用戸数	2戸	1戸	△1戸
	牛舎利用頭数	8,600頭	17,185頭	8,585頭
	畜舎利用房数	0房	0房	0房
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> ） 牧場施設の利用者は現在1戸であるが、短角牛の増頭を行っていることから、利用者と連携し、事業拡大に協力しているとともに、畜舎の補修等を行い施設の維持管理に努めた。 家畜管理施設は、利用されていないため、保守管理のみ実施した。				

4. 自主事業の実施業況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収入	支出

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：改善要）

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の收受及び施設管理費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価

トラクター等作業用機械については、年数経過とともに老朽化が進み修繕費がかかるものの、事業遂行には必要不可欠であるため、できる限り修繕費を抑えながら機能の維持を図った。
 牧場施設の利用法人と連携し、牛糞堆肥をそば畑に活用した。
 利用法人と連携協力し、事業拡大と施設の利用が円滑に進むよう努めた。

7. 市の所管課総合評価

牛舎の管理については今後も事故のないよう管理に努めてほしい。作業機械については、日々のメンテナンスを行うことにより維持管理に努めてほしい。